

開講科目名 / Course	健康支援論演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	赤星 琴美	
担当教員名 / Instructor	赤星 琴美、佐藤 愛、小野 治子、木嶋 彩乃	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
科目の目的と概要	健康教育が行われる対象や場を理解し、個人・集団の健康増進や疾病予防のための行動変容を促す理論やモデルを活用した健康教育の企画・実施・評価等の一連のプロセスを修得する。多様な医療・保健・福祉の場や様々なライフステージにおける健康教育のあり方や考え方を学ぶ。また、病院、施設、地域などにおける保健指導の場面を設定した健康教育の課題演習を行い、対象者に合わせた支援スキルを修得する。	
到達目標	1. 健康教育が行われる対象や場を説明できる。 2. 行動変容理論等健康教育に関する理論を説明できる。 3. 保健指導場面の演習を通して健康教育の実践ができる。	
DPとの対応	1. 確かな看護の力・技術力、2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3. 心豊かな人間性と倫理観、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力	
授業計画	01. ヘルスプロモーションと看護活動 02. 医療場面での患者教育・家族教育 03. 健康行動理論とその活用方法(1) 行動変容を促す理論・モデル(ヘルスピリーフモデル他) 04. 健康行動理論とその活用方法(2) 行動変容を促す理論・モデル(自己効力感他) 05. 健康行動理論とその活用方法(3) 行動変容を促す理論・モデル(行動変容ステージモデル他) 06. 健康教育・保健指導の実際: 健康教育のアプローチ(グループワーク) 07. 健康教育・保健指導の実際: 健康教育の方法(1)(グループワーク) 08. 健康教育・保健指導の実際: 健康教育の方法(2)(グループワーク) 09. 健康教育・保健指導の実際: 健康教育の媒体(1)(グループワーク) 10. 健康教育・保健指導の実際: 健康教育の媒体(2)(グループワーク) 11. 健康教育・保健指導の実際: 方法と媒体の選択(グループワーク) 12. 健康教育・保健指導の実際: 健康教育計画の企画(1)(グループワーク) 13. 健康教育・保健指導の実際: 健康教育計画の企画(2)(グループワーク) 14. 課題報告会(1) 15. 課題報告会(2)	
その他の授業の工夫	学生が主体的に学ぶため、グループワークや発表、意見交換等のアクティブラーニングを実施する。	
時間外学修	個人やグループ課題について講義資料やその他の関連を参考にしながら学習を行う。	
評価方法と評価割合	筆記試験及び課題レポート、授業参加態度により総合的に評価する(評価配分: 筆記試験30%, 授業参加態度20%, 課題レポート50%)。なお、筆記試験の受験資格は、出席が10回以上とする。	
テキスト	講義ごとにハンドアウトを配布。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	赤星琴美: 保健所の保健師、小学校・中学校・高等学校の養護教諭 小野治子: 看護協会職員、高等学校の養護教諭 佐藤愛: 病院の保健師 木嶋彩乃: 市町村保健センターの保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	担当教員それぞれが、医療機関および行政機関で保健師として保健活動を実践してきた豊富な経験、養護教諭として学校での保健活動を実践してきた経験もとに学生を指導する。	